

#6 TeamLemans Audi R8 LMS

Satoshi MOTOYAMA

Yoshiaki KATAYAMA



大会概要

2022年 SUPER GTシリーズ 第1戦

大会名称

2022 AUTOBACS SUPER GT Round1 OKAYAMA GT 300km RACE

開催日時

4月16日 土曜 (予選) 4月17日 日曜 (決勝)

開催サーキット

岡山国際サーキット (1周: 3.703km)

所在地: 岡山県美作市滝宮1210

同時開催レース

Porsche Carrera Cup Japan 2022 第1戦・第2戦

主催

株式会社 岡山国際サーキット

アイダクラブ (AC)

株式会社GTアソシエーション

公認

国際自動車連盟 (FIA)

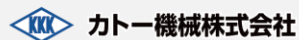
一般社団法人 日本自動車連盟 (JAF)

認定

株式会社GTアソシエーション

後援

岡山県 / 美作市 / 岡山県観光連盟 / 美作国観光連盟 / 岡山県経済団体連絡協議会 / 一般社団法人岡山県商工会議所連合会 / 岡山県経営者協会 / 一般社団法人岡山経済同友会 / 岡山県中小企業団体中央会 / 岡山県商工会連合会 / 山陽新聞社



◆ 参戦体制

■ ドライバー



本山 哲
SATOSHI MOTOYAMA

生年月日 1971年3月4日
出身地 群馬県
身長 171cm
体重 62kg
血液型 RH+O



片山 義章
YOSHIAKI KATAYAMA

生年月日 1993年11月13日
出身地 愛知県
身長 168cm
体重 69.3kg
血液型 RH+O

■ 監督



小倉 啓悟
KEIGO OGURA

■ スタッフ

チーフエンジニア 近藤 良一
チーフメカニック 田村 貴史

■ スポンサー

ザーレン・コーポレーション株式会社	株式会社デジテックエイチピー
TONE株式会社	コスモ開発株式会社
ニチアス株式会社	ウェスタンデジタルジャパン株式会社
エバー株式会社	医療法人さかくら耳鼻咽喉科
カトー機械株式会社	ARMS株式会社
城東電機株式会社	ブランデュース株式会社
青山エレベーター株式会社	株式会社PACIFIC RACING TEAM
株式会社ジョイフル設備	B.R.M / Viron Japan 株式会社



◆ 予 選

天気	晴れ
コース状況	ドライ
気温	17℃ (GT300クラスQ1開始時)
路面温度	21℃ (GT300クラスQ1開始時)
予選開始	14時00分 (GT300-Q1-A組開始)



今シーズン、Team LeMansは昨年に引き続き本山哲と片山義章をドライバーに迎え、SUPER GT GT300クラスにAudi R8 LMSで参戦する。2年目となる今シーズンは、チーム名を「MOTOYAMA Racing with Team LeMans」とし、またマシンを“evo II”アップデートキットにより、エアロダイナミクス、エンジン、サスペンションの改良を図るなど準備を進めてきた。タイヤは、昨シーズン同様、ヨコハマタイヤを装着する。GT300クラスでは、全戦でA、Bの2組に分かれてそれぞれ10分間のQ1を行い、各組の上位8台がQ2に進出する。岡山国際サーキットで行われる開幕戦には27台が参加し、#6 Team LeMans Audi R8 LMSはA組でQ1に挑み、まずはQ2進出と念願の初入賞を目指す。

#6 Team Lemans Audi R8 LMS

予選結果：12位 (予選Q1ベストタイム：1分25秒415／本山選手 予選Q2ベストタイム：1分25秒108／片山選手)

予選に先立ち、4月16日午前に行われた公式練習では、evo IIに進化したAudi R8 LMSに適したセットアップを見出すことに成功。そして好天のもと、まずは本山がQ2進出をかけてQ1-Aに挑んだ。本山は計測3周目に1分25秒601をマークしてQ1突破ラインの8位に浮上し、さらに次の周回で自己ベストを更新する1分25秒415をマークし、7位でQ2進出を果たした。続く片山は計測3周目で、本山のタイムを上回る1分25秒108を叩き出し、12番グリッドを獲得した。



カトー機械株式会社



◆ 決 勝

天気	晴れ
コース状況	ドライ
気温	23℃（スタート時）
路面温度	33℃（スタート時）
決勝レース開始	14時00分
レース予定周回数	82周（約300km）



#6 Team Lemans Audi R8 LMS（本山 哲選手&片山 義章選手）

決勝結果：5位（所要時間：1時間59分14秒110=76周消化/ベストラップ：1分28秒522=本山選手）

翌4月17日も岡山国際サーキットは好天に恵まれた。気温や路面温度も前日より上がり、絶好のコンディションで14時からの決勝レースを迎えることに。スタートは本山が担当。2周のフォーメーションラップのあと、ローリングスタートで戦いの火蓋が切られたレースは、本山がしっかりとスタートを決めて12番手を守る。その後、2つポジションを落とした本山だったが、上位勢と変わらぬ1分29秒台のタイムで周回を重ね、トップから10～20秒差以内をキープする走りで、初入賞への希望をつなぐ。

中盤の25周を終えたころから、ライバルたちのピットストップが始まるが、チームはほぼ折り返しとなる37周まで本山のステイントを引っ張り、片山にレース後半を託す。絶妙なタイミングでのピットストップにより、片山は実質10番手でコースに復帰した。

ここからしばらくは、前を走る#4 グッドスマイル 初音ミク AMGの谷口に行く手を阻まれ、また、後続の#61 SUBARU BRZ R&D SPORTの山内に迫られる苦しい展開が続く。それでもこの日の片山は高い集中力と冷静さを保つドライビングで虎視眈々とオーバーテイクの機会をうかがい、56周目のダブルヘアピンで#4 谷口を捉えることに成功する。

これで8位にポジションを上げた片山は、5番手を走る#7 Studie BMW M4のファルプスが巧みな走りで後続を抑える集団に追いついた。小康状態が続くなか、動いたのは片山だった。69周目のダブルヘアピンで#10 GAINER TANAX GT-Rの富田を捉えて6位に順位を上げた片山は、さらに次の周、ライバルたちが抜きあぐねていた#7 ファルプスをふたたびダブルヘアピンでオーバーテイクし5番手に浮上。その後、FCY明け直後にハーフスピンを喫してヒヤリとする場面もあったが、それでも順位を落とすことなくゴールを迎え、参戦2年目にして初の入賞を果たすこととなった。



本山 哲 選手のコメント

マシンにアップデートが入り、チームがマシンをうまく仕上げてください、ベストな状態で開幕戦を迎えることができました。加速性能にはまだ不満を抱えていて、レース中のバトルは難しいところもありましたが、耐久レースを戦ううえでは、高いブレーキング性能を生かし、また、良いセットアップが見つかったことから、中盤から後半にはまわりに比べて速いペースを保つことができました。前半を担当した私がなんとか堪えて、後半の片山選手につないだところ、片山選手が素晴らしい走りを見せ、待望の初入賞。しかもいきなり5位という好成績で、この結果をもたらしてくれたチームの皆に感謝しています。次戦もこの勢いをうまく保ち、期待を膨らませて富士に臨みたいと思います

片山 義章 選手のコメント

「なんとしてでも初ポイントを獲る」「ベストを尽くせば結果はついてくる」と信じて、この開幕戦に臨みました。決勝ではドライバー交替直後から谷口選手についていき、タイミングを見計らってオーバーテイク。その後も激しいバトルが続き、目の前でマシンがスピンしたり、ぶつかったり、GT500との接触があったりとサバイバルな展開でした。そんな状況でもドライビングに集中することができ、前を走るマシンを一台、また一台と抜いていったら、気がつけば5位でした。そのままゴールを迎え、あっという間にレースが終わってしまったという印象です。マシンを良い状態に仕上げてくださいましたチームに感謝しています。次の富士は長いストレートがあり、Audi R8には少し不安もありますが、コーナーでの速さを生かして、ポイントを獲得したいと思います。

小倉 啓悟 監督のコメント

参戦1年目の昨シーズンは1度もポイントが獲得できず、苦しい思いが続いただけに、久しぶりに達成感のあるレースができ、うれしく思います。今回はQ2に進出することと、初ポイントを獲得することを目標に、ここ岡山の開幕戦に臨みました。今年はチーム体制が変わり、アップデートしたAudi R8 LMSも以前より戦闘力が高まっています。さらに今回はAudi Sportからエンジニアが来日し、公式練習では良いセットアップが見つかったということもあって、予選からチームの士気は上がっていました。さらに、Q2に進出したことから、決勝でも良いところまで行けるのではないかとこの予感がありました。終わってみれば、チームが目標としていた以上の成績を手にすることができましたが、チームみんなの頑張りがこの結果を生んだと思います。開幕戦で幸先の良いスタートを切ることができたので、このままの勢いでポイントを積み増していけるよう、努力を続けたいと思います。

